

英語道弟子課程の精神 The Spirit of the Course of Disciples, Eigodo

1 「世界レベルの教養・美意識」、「エラベイトイッド英語」の具現

英会話道場イングリッシュヒルズ・英語道弟子課程は、1)「世界レベルの教養」、及び、2)「世界レベルの美意識」の構築具現を介して、「エレガント英語の『究極』」(the “ultimate” of elegancy in English)に到達することを目標とする。

英語道弟子課程で探究する「エレガント英語の『究極』」とは、所謂、「エラベイトイッド英語」(English spiritually elevated)を意味することをここに宣言する(「エラベイトイッド英語」の詳細は、英語道弟子課程専用ページ内を参照)。

英語道弟子課程は、世界レベルの教養・美意識構築具現と同時進行で、エラベイトイッド英語樹立を目指すための「厳格」、且つ、“神聖”な学びの聖域」である。

英語道弟子課程を主宰する講師の生井利幸は、弟子における上記の到達目標を具現するために、真心を込めて丁寧に、「教授すべき“すべて”」を教授することを、ここに宣言する。

2 世界のトップレベルの大学院・研究室に相当する「厳格なる指導・助言」

英語道弟子課程で行われる指導・助言はすべて、「世界のトップレベルの大学院の研究室で行われる指導・助言」に相当する“極めて高度な学術レベル”を堅持することをここに定める。

英語道弟子課程では、以下の2つの稽古場において、1)「基盤稽古である『英語稽古』」、そして、2)「特別稽古」、3)「弟子の特権」(privilege given to the disciples)、4)「その他の厳格指導」が行われる。

第一稽古場： 銀座書齋 <「英知」(philosophia)具現の稽古場>

「世界レベルの英知」具現を目指して切磋琢磨する「学問の聖域」。英語道弟子課程の英語稽古（基盤稽古）が行われる稽古場。

第二稽古場： 森のギャラリー <「美意識」(a sense of beauty)具現の稽古場>

森のギャラリーは、植物と絵画を「生井利幸独自の美意識」でデコレートした『美』(beauty)の究極的空間。森のギャラリーは、本来、講師の自宅であり、講師は、自己のプライベートを弟子に完全開示。弟子に対して、惜しみなく、「自己の美意識における『究極的境地』」を開示・厳格指導。

◆基盤稽古の概念

基盤稽古とは、「英語稽古」を指す。「英語稽古」は、当・英会話道場イングリッシュヒルズ・通常コースにおいては、所謂、「通常レッスン」に相当するものである。

3 「人類」(humankind)という立ち位置で行われる英語稽古

基盤稽古としての「英語稽古」は、英米、及び、世界のトップレベルの大学院で教授されている学術レベル、または、それ以上の学術レベルで行われる。但し、弟子の英語力がこれに及ばない場合は、「弟子にとって最も妥当な英語レベル」で教授する。

生井利幸が教授する英語道弟子課程は、一事が万事において、「弟子における現在の“英語力”・“基礎学力” そのもの」よりも、「弟子自身が、生井利幸の弟子として、『人類』(humankind)という立ち位置から、生井利幸の直接指導の下、如何なる崇高な哲学・理念の構築を目指しているか」という“精神基盤の存否”を何よりも優先して重視する。

4 講師が堅持する「地球規模の『愛情』『献身の心』」

基盤稽古としての「英語稽古」、及び、その他のすべての追加の稽古は、講師が堅持する「地球規模の『愛情』と『献身の心』」を基盤として行われる。

5 「エラベイティッド英語」で教授するエレガンスの究極

英語道弟子課程は、「真の学びの道に『近道』はなし」という“厳格理念”の下、講師が教授する英語稽古を介して、「エレガント英語の『究極』」を目指すための学びの聖域である。

講師は通常、英会話道場イングリッシュヒルズの通常レッスンにおいては「エレガント英語」で教授している。一方、究極的エレガンスの具現を目指す英語道弟子課程における英語稽古においては、講師は、エレガント英語を超越した『エラベイティッド英語』(English spiritually elevated)で教授している。

6 基盤稽古としての「英語稽古」の日時の決定

「英語稽古」(基盤稽古)は、常に、1ヶ月において、毎週1回(月に4回)とする。毎月における英語稽古の日時は、当該レッスン月の前月における第1回目の英語稽古・スタート時に決定する。

この方法により、弟子は、英語稽古の日程が既に決まっている月の前月から、レッスン日時をしっかりと確保することが可能となる。これにより、弟子は、時間的にかなり余裕を持って、他のスケジュール(仕事やプライベート)の調整をすることが可能となる。

したがって、弟子は、常に「自分の学習リズム」を堅持することができ、無理なく、そして、安心して、「英語稽古」(基盤稽古)の受講、及び、「英語稽古」(基盤稽古)の復習をすることができる。

7 “講師との約束を守る”という行為の「理性性」「神聖性」

当該英語稽古の前月において、講師と弟子の相談の上で決定した英語稽古日時は、言うなれば、「一人の人間」と「一人の人間」の約束である。

「人類」(humankind)という立ち位置から「世界レベルの教養・品格」を養う上で最も重要な精神基盤となる要素とは、「この地球に存する一人の人間として、『社会的常識・道徳・マナーを遵守する』」ということである。加えて、言うまでもなく、「一人の人間として、『自己都合よりも、“他人との約束”を最優先する』」ということも、この地球に存する一人の人間として最も基本となる行為である。近代法学の立場から述べるならば、本来、

真の意味における「個人尊重主義」(individualism)とは、このような精神がそこに内在していると明言できるものだ。

このことは、弟子自身、「英語を学ぶ以前の問題」として考えるべき極めて重要な問題、即ち、「地球に存する一人の人間としての『モラル意識』『品性』の問題」と名言できるものである。

講師は、常に、「完全個人稽古として、たった一人の弟子」のために、前月の初旬から当該稽古のための時間枠を空け、その時間帯を維持するために、他の時間帯において相当な工夫を凝らし、「弟子と約束した稽古の時間の維持」のために最大限の努力を込めている。

弟子においては、この点について十分な理解を得、国際社会に生きる一人の“常識人”として、「講師と約束した稽古日時」を遵守するべく、最大限の努力を試みることを切望する。

8 英語稽古に遅刻する場合

何らかの理由により、稽古場への到着が「英語稽古スタート時間」に間に合わない場合には、事前に、その旨について電話で連絡しなければならない（言及するには及ばないが、メールでの連絡は、不適切、且つ、非常識）。

弟子は、たとえ英語稽古のスタート時間に間に合わない場合にでも、できる限り、英語稽古に出席するべく最大限の努力を試みることを期待する。

◆英語道弟子課程・弟子(disciple)としての根本精神

”Practice makes perfect every day every night.”

(毎日の練習の積み重ねこそが、より良い成果を生む。)

◆講師の考え方

偽者は、平日に勉強するが、週末には勉強しない。本物は、平日はもとより、仕事のない週末にこそ、さらに多くの時間を駆使してしっかりと勉強を行う。

9 英語稽古を欠席する場合

英語稽古を欠席する場合は、必ず、電話で連絡しなければならない（メールでの連絡は、

不適切、且つ、非常識)。なお、自己都合で欠席した英語稽古について、その稽古を他の日時に振り替えることはない(詳しくは、7 “講師との約束を守る” という行為の「理性性」「神聖性」を再確認すること)。

10 学費

「英語稽古」(基盤稽古)は、“すべて”、「完全個人稽古」として行われる。一回の英語稽古時間を60分とし、その稽古を、週に1回(月に4回)と定める。英語道弟子課程への入学金は無料、月謝は24,000円と定める。

また、弟子が、学習の推移に応じて、以下に掲げる英語稽古以外の『追加の稽古』を受講した場合、その稽古費用は、すべて無料と定める。

英語稽古以外の「追加の稽古」とは、以下の如き稽古を指す。

1) 「特別稽古」

「世界レベルの英知(philosophia)・美意識(a sense of beauty)」構築具現のための追加の特別稽古(詳細は、専用ページ内を参照)

2) 「弟子の特権」(privilege given to the disciples)の使用で発生する追加の稽古(詳細は、専用ページ内を参照)

3) その他、必要に応じて行われる一切の厳格指導

弟子における学習の推移に応じて開講される1)「特別稽古」、及び、2)「弟子の特権」は、すべて、講師の“真心”から、「講師のプライベートな時間」を投入して行われる。「特別稽古」、及び、「弟子の特権」を開講する場合、稽古のための時間は、すべて「講師からのプレゼント」とし、歓談の時間において提供されるドリンク・食事等の費用は、すべて講師の負担とする。

弟子においては、「生井利幸における時間の意味・価値」をしっかりと認識・理解し、講師が与える『弟子に対する地球規模の愛情』を無駄(無価値)にすることのないように心掛けていただきたい。

<重要事項の追記>

生井利幸にとって、『時間』(time)は、『命』(life)の次に大切なもの』である。弟子においては、「平日・週末共に、常に 24 時間体制で一秒一秒を刻み続けている講師における『時間の価値』(value of time)」についてしっかりと認識・理解していただきたい。弟子自身、厳格な精神基盤の下、『時間の価値』を理解しない状態でどのように質の高い稽古を受講しても、何ら意味を成さない」という真実を認識・理解することは、受講する以前の問題として最低限必要である。

1 1 月謝の支払い方法

月謝の納入方法は、当教室指定の銀行口座への振込みとする。

<振込みの時期> 毎月、英語稽古の月の前月の15日まで

毎月の月謝は、英語稽古月の前月の15日までに、下記の銀行口座に納入。例えば、12月分の英語稽古の月謝であれば、「前月の15日」、即ち、「11月15日までに振込み」という方法となる。

◆銀行口座

三井住友銀行 銀座支店

<普通口座> 7761842

<口座名義> 英会話道場 イングリッシュヒルズ

1 2 講師への連絡方法

すべての連絡は、「電話」で行うこととする。当・英会話道場イングリッシュヒルズは、「コミュニケーションの真髄」を教授する教室である。当教室は、緊急の連絡、あるいは、その他の連絡も、すべて“実際の会話”で行ってこそ、真の意味での「世界レベルの教養・品格を備えた英日バイリンガル」として大きく成長できるものと捉えている。

「大切な用件は、メールではなく、『電話』で伝える」、・・・弟子においては、この事も「英語道弟子課程における稽古の一つ」として捉えていただきたい。

銀座書齋 03-3547-6044

森のギャラリー 03-3551-4775

講師携帯 090-8309-4438

1 3 講師に対して相談がある場合

弟子が講師に対して何らかの相談がある場合、弟子は、通常の英語稽古スタート時、あるいは、電話にて、その旨について相談することができる。相談内容は、英語稽古における学習内容、英語稽古の復習方法、あるいは、それ以外の案件、例えば、自分磨き・生き方の問題等、その類を問うことなく、弟子は、講師に対して如何なる問題についても相談することができる。

弟子が英語稽古スタート時、あるいは、電話で講師に相談をした場合、講師がその相談に乗る上で「相当の時間」が必要であると判断した場合、講師は、英語稽古以外の時間において、その案件についての相談に乗る目的で「別の時間枠」を捻出する。その場合、講師は面会時間を捻出し、弟子における問題の解決を目指し、共に、時間をかけてゆっくりとその解決方法について考えていく。

1 4 ボイスレコーダー使用に関する基本マナー

弟子は、英語稽古、または、その他のすべての稽古内容についてボイスレコーダーを使用して録音することができる。ボイスレコーダー使用に際する基本マナーは、通常レッスン時（受講生当時）におけるマナーに準じるものとする。

1 5 英語道弟子課程・専用ページ < 1 >

英語道弟子課程・専用ページは、世界でも唯一無二の「地球規模の英知・美意識の巨大空間」である。現在、英語道弟子課程・専用ページは、1)「メインページ」、2)「弟子の特権ページ」、3)「pre-elevated ページ」の“巨大3層”を中心に構成されている。

“巨大3層”から構成されるこの“理性的”・“感性的”大空間には、それぞれの層ごとに、相当数の英語音声講義、及び、文書教材が掲載されている。個々の教材においては、すべて、「世界最高峰レベルの英知・美意識」がそこに内在している。講師は、可能な限り更なる時間を捻出し、弟子の学習の推移に応じて、常に、新教材として、新規の英語音

声講義、及び、文書教材を作成・掲載し続けていく。

英語道弟子課程・専用ページは、1)「英語道弟子課程・弟子」、2)「Lesson Extraordinary 受講生」、及び、3)「弟子選考試験・受験希望者」のみが閲覧することができる。

英語道弟子課程・専用ページの閲覧には、専用パスワードを必要とする。パスワードは、定期的に変更となるため、変更になった場合は、その都度、電話で、新パスワードを講師に尋ねることを要する（英語稽古において、パスワードをついでに尋ねる行為は禁止と定める。講師は、重要事項についてついでに尋ねる行為は、『神聖なる学問』に対する冒瀆であると解する）。

1 6 英語道弟子課程・専用ページ < 2 >

英語道弟子課程・専用ページは、所謂、「理性」(reason)と「感性」(sensitivity)で構築された「巨大な宇宙空間」である。

英語道弟子課程においては、この巨大な空間を”rational sphere”(理性的球体)と定義する。即ち、英語道弟子課程・専用ページは、1)「宇宙」(the universe)、及び、2)「人類」(humankind)という“大枠”を大前提として、西洋文明社会、及び、東洋文明社会に存する「英知」「美意識」について体系的に学んでいくための「“理性的”巨大空間」としての役割を担う空間である。

1 7 英語道弟子課程の受験資格

英語道弟子課程・弟子選考試験の受験資格は、英会話道場イングリッシュヒルズの通常レッスンを1年(12ヶ月)以上継続受講した者に賦与される。

通常、弟子選考試験の受験準備には「3ヶ月」の期間を要する。受験準備に向けた勉強方法は、弟子選考試験・受験希望者に対して生井利幸が「真心」を込めて行う。

外部からの直接受験は、如何なる理由があろうとも、これを認めることはない。

1 8 「家族愛」 (“genuine love” like family)を基盤とした真実の指導

英語道弟子課程は、上記のすべての事項について、「地球規模の『家族愛』(“genuine love” like family)」を基盤として、真心を込めて丁寧に行う。

本来において、弟子に対する真の愛情とは、「弟子に対して『責任ある指導』を行うこと」である。これを逆に述べるならば、「単に優しい」、あるいは、“無意味に優しい”指導とは、弟子に対して責任不在の指導と捉えるべきである。言うまでもなく、「“無意味な優しさ”からは、決して弟子における能力の改善・向上に繋がることはない」と、講師は捉える。

講師である生井利幸が弟子に対して行う厳格指導は、そのすべてが、「弟子の成長を見据えて行う『家族愛』」であることを、ここに宣言する。生井利幸にとって、「弟子の事」(disciple’s business)は「自分自身の事」(my own business)であり、弟子に対する厳格指導は、そのすべてが「自分の家族に対する愛」と同様の愛である。

海外でも日本でも、「親は、自分の子を本気で叱る」という事実は何ら変わるものではない。親が子を叱るのは、「“本気で”子を愛している所以(ゆえん)」である。わたくし生井利幸にとって、英語道弟子課程で学ぶ「弟子」(disciple)は、「真実の学びの道を歩む『自分の子そのもの』」である。